

悪夢

吉田 真人

就寝中に見る夢の内容は殆どの場合覚えていないが、幾つかの悪夢だけは何故か鮮明に覚えていて。繰り返し見て、うなされたからだろうか。

傷痕軍人に追いかけられる

北関東に住んでいた子供時代、母方の祖父母の住んでいた東京大森によく出てきた。5歳の頃だろうか、上野動物園に行った時、入り口付近に傷痕軍人がずらっと並んで寄付を請うているのを見た。田舎の市でも、お祭りの時などに見かけることはあったが、その人数の多さと気の毒な重傷度で、子供心に強烈な印象を残した。また、あるとき省線電車（京浜東北線）の車内で寄付を請う姿も見かけた。

以来、傷痕軍人に追いかけられる夢を度々みた。多分体調の良くない時だったのだろう。成人するにつれ、この夢は見なくなつた。

大学の追試験に間に合はない

教養学部時の必修語学が出席日数不足で、卒業間際に追試験を受ける必要があつた。試験当日、何故か、会場から遠い場所におり、所定時間にとっても間に合いそうもない。なんとかする手立てはないか？焦る。汗びっしょり、となつたところで目が覚める。

この悪夢は40代くらいまでみた。実際に追試験を受けたのかどうかは、今となつては記憶が定かではない。出席率が極めて低かつたのは事実である。

鼠径ヘルニアがぶり返す

50歳になる頃から鼠径ヘルニア（いわゆる脱腸）に悩まされた。50代半ばに海外赴任する直前に手術をした、今のところ生涯唯一の入院経験である。体の中に異物を入れる手術なので、手術後最初の数日はとても痛い、が数日すると痛みは薄らぐ。田園都市線沿線にある病院の看護婦は皆若くて美人だったので、入院自体は苦い思い出ではない。しかし何故か、ヘルニアが再発し、呻吟する夢を何回もみた。体内の異物がなじんでくるに従い、夢の回数も減つてはきたようだが、今でもごくたまにみる。

四つ目の悪夢はどのようなものだろうか。死の直前に見るのだろうか。その場合には、内容を記述する術がないのが残念だ。

（2024年3月14日）